

問1 大正時代から昭和時代にかけて活動した市川房枝の活動について、戦前・戦後の流れとして正しいものはどれですか。（2019年

島根公立入試 類似）

1. 戦前は新婦人協会などを通じて女性参政権獲得を目指して活動し、戦後は日本初の女性国会議員の一人として女性の地位向上に尽力した。
2. 岩倉使節団の一員としてアメリカへ留学し、帰国後は看護学校の設立に携わることで、近代的な医療現場における女性の役割を確立した。
3. 日露戦争の際、戦地へ送られた弟を思う詩を新聞に発表し、文学を通じて平和の尊さと女性の家族への愛を訴え続けた。
4. 明治新政府の「富国強兵」政策に基づき、製糸工場で働く女性工員たちの労働環境を改善するため、日本で最初の労働組合を結成した。

問2 日本の総人口と有権者数の推移を記した統計によると、1920年には約300万人だった有権者数が、1928年には約1200万人へと、短期間で約4倍に急増しています。このような変化が起きた背景として、1925年に行われた制度改正の内容として正しいものはどれですか。（2020年 徳島公立入試 類似）

1. 大正デモクラシーの風潮の中で、それまで制限されていた直接国税による納税要件が撤廃されたため。
2. 女性の社会進出が進み、平塚らいてうらの運動によって女性参政権が初めて認められたため。
3. 選挙権の年齢制限が、世界的な潮流に合わせて満25歳から満18歳へと大幅に引き下げられたため。
4. 第一次世界大戦後の好景気により、直接国税を3円以上納めることのできる国民が急増したため。

問3 1918年に発生した米騒動に関連して、当時の国際情勢と国内の出来事との因果関係を説明した記述として正しいものはどれですか。（2018年 福島県公立入試 類似）

1. ロシア革命の波及を恐れた日本がシベリア出兵を行い、それによる米価高騰が米騒動を引き起こして寺内正毅内閣が退陣した。
2. 第一次世界大戦の終結に伴う不況を打開するためにシベリア出兵が行われ、生活苦に陥った都市労働者が米騒動を首謀した。
3. 社会主義思想が日本国内に広まったことで、農村での小作争議と都市での米騒動が同時に発生し、普通選挙法が制定された。
4. シベリア出兵への反対運動が全国に広がるなかで、軍部が食糧管理を強化したことに反発した国民が各地で暴動を起こした。

問4 大正時代の東京を写した記録において、地震による火災で一度は焼け野原となった市街地に、コンクリート造の近代的なビルが立ち並び復興の様子が見られる。このような都市景観の変化をもたらす直接の契機となった出来事はどれか。（2022年 島根公立入試 類似）

1. 阪神・淡路大震災
2. 第二次世界大戦による空襲
3. 関東大震災
4. 明治維新による文明開化

問5 1920年前後の日本において、労働運動や社会運動が活発化した背景と、その時期に起きた出来事の説明として最も適切なものはどれですか。（2021年 愛知公立入試 類似）

1. 第一次世界大戦後の民主主義的な風潮の中で、東京の上野公園で日本最初のメーデーが開催された。
2. 日露戦争の講和条約に反対する暴動をきっかけに、労働者が団結して労働基準法の制定を実現させた。
3. 明治新政府の地租改正に反対する農民たちが、政治への参加を求めて上野公園で集会を開いた。
4. 大正デモクラシーの影響により、女性の参政権を認める法律がこの時期に世界に先駆けて制定された。

問6 1910年代半ば、日本の輸出額が急上昇し25億円付近にまで達した時期の経済状況について、その背景として最も適切な説明を選んでください。（2016年 大分県公立入試 類似）

1. 第一次世界大戦の影響でヨーロッパ諸国の生産が落ち込み、日本からの輸出が増じたため
2. 所得倍増計画が進められたことで、国民の購買力が高まり国内市場が活性化したため
3. 世界恐慌への対策として、政府が公共事業を増やし通貨供給量を拡大させたため
4. 明治維新による文明開化が一段落し、生糸の輸出が安定的に推移したため

問7 1925年に成立した普通選挙法と、同じ年に制定された法律の関係および時代背景について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2026年 青森公立入試 類似）

1. 国民の政治参加を広げる一方で、社会主義運動などの取り締まりを強化するため、治安維持法が同時に制定された。
2. 日露戦争の勝利による国威発揚を背景に、軍部への支持を広めるための恩恵として制定された。
3. 世界恐慌による深刻な不況を乗り切るため、労働者の不満を和らげる目的で、労働組合法とセットで制定された。
4. 欧米諸国からの女性参政権要求に応える形で、国際連盟への加盟条件として制定された。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 戦前は新婦人協会などを通じて女性参政権獲得を目指して活動し、戦後は日本初の女性国会議員の一人として女性の地位向上に尽力した。	市川房枝は、平塚らいてうと共に新婦人協会を設立して以来、一貫して女性の政治参画（参政権）を求めて活動しました。その願いは第二次世界大戦後の1945年に実現し、彼女自身も1953年から参議院議員として長く政治の場で活動し、日本の女性運動をリードし続けました。留学の記述は津田梅子、日露戦争の詩は与謝野晶子の事績です。
問2	答え 1 大正デモクラシーの風潮の中で、それまで制限されていた直接国税による納税要件が撤廃されたため。	大正デモクラシーの時期、国民の政治参加を求める声が高まり、1925年に加藤高明内閣のもとで普通選挙法が制定されました。これにより、それまで有権者の枠を狭めていた「直接国税の納付」という条件がなくなったため、労働者や農民など幅広い層の男子が有権者となり、有権者数が飛躍的に増加しました。なお、この改革による社会主義運動の広がりを警戒し、同時に治安維持法も制定された点に注意が必要です。
問3	答え 1 ロシア革命の波及を恐れた日本がシベリア出兵を行い、それによる米価高騰が米騒動を引き起こして寺内正毅内閣が退陣した。	ロシアで1917年に発生した社会主義革命（ロシア革命）の広がりを食い止めるため、日本を含む連合国はシベリアへ軍隊を送りました。この出兵の影響で起きた米騒動は、警察や軍隊が出動するほどの大規模なものとなり、当時の寺内正毅内閣はその責任を取って総辞職しました。その後、日本で初めての本格的な政党内閣となる原敬内閣が誕生する契機となりました。
問4	答え 3 関東大震災	1923年（大正12年）に発生した関東大震災は、日本の建築技術や都市計画に大きな転換点をもたらしました。震災後の復興過程で、地震や火災に強い都市づくりを目指して建築基準が見直され、それまでの木造中心の街並みから、コンクリートを用いた不燃化・耐震化が進んだことが背景にあります。
問5	答え 1 第一次世界大戦後の民主主義的な風潮の中で、東京の上野公園で日本最初のメーデーが開催された。	大正時代、第一次世界大戦の景気による産業の発展とその後の不況を経て、労働問題が深刻化しました。これに対し、友愛会などの労働団体が成長し、1920年には労働者の祭典であるメーデーが日本で初めて開催されました。これは大正デモクラシーにおける社会運動の多角化を示す重要な一歩です。労働基準法の制定は1947年のことであり、当時の状況とは合致しません。
問6	答え 1 第一次世界大戦の影響でヨーロッパ諸国の生産が落ち込み、日本からの輸出が急増したため	1914年に始まった第一次世界大戦により、戦場となったヨーロッパ諸国では工場の生産能力が著しく低下しました。これにより、日本がヨーロッパ諸国に代わってアジア市場などへ製品を供給することになり、輸出が爆発的に増加しました。この空前の好景気は「大戦景気」と呼ばれ、日本はこの時期に債務国から債権国へと転換しました。
問7	答え 1 国民の政治参加を広げる一方で、社会主義運動などの取り締まりを強化するため、治安維持法が同時に制定された。	1925年は、大衆の政治意識の高まりを受けて普通選挙法が成立した記念すべき年ですが、政府は同時に、共産主義や社会主義の広がりを警戒し、国体（天皇制）を否定する動きなどを厳しく取り締まる「治安維持法」を制定しました。これは、国民に権利を与える一方で、国家にとって不都合な思想を弾圧するという「飴と鞭」の政策であったと言えます。